

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年9月26日
- 事業名 : MOM FoR STAR（沖縄のシングルマザーが自信とやりがいをもって働けるように、IT企業とシングルマザー支援団体が連携してつくる就労プログラムとコミュニティ）
- 資金分配団体 : 公益財団法人オリオンビール奨学財団
- 実行団体 : 株式会社レキサス

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
活動情報の発信	発信回数	5回/月	2023年3月	[SNS 投稿回数] 2022年4月5回、5月3回、6月0回、 7月2回、（月平均：2.5回） [遅れている理由] ・コロナの影響で計画していたイベントを開催できず、発進する情報が減ったため。 ・SNS 以外のメディアでの情報発信が増えたため（詳細は「③広報の実績」を参照）。 [Facebook フォロワー数] 136名（2023年8月末時点）	3
プロジェクトへの参加	参加人数	5名/年	2023年3月	1期生：5名、2期生：6名	2

研修の受講	研修受講時間	500時間/6ヶ月 =83時間/1ヶ月 (1人あたり)	2023年3月	2022年4月～2022年7月末の1人あたり 平均月間勤務時間：107時間 (一部メンバーは、本人または子どもの体調不良等の理由により研修受講時間が短くなった)	2
交流会の開催	交流会開催回数	5回/年	2023年3月	2022年3月末までに5回開催。2022年度は、4月から9月末までに5回開催。	2
個人面談の実施	個人面談の実施回数	5回/年	2023年3月	2022年3月末時点で1期生5名の各メンバーに対して5回実施(仕事面、生活面、体調面などを中心に面談を実施)	2
子どもたちの参加	交流会の参加回数	2回/年	2023年3月	2022年3月末時点で3回開催	2
地域への周知	発表会の参加者数	100名	2023年3月	2022年3月のOSP(OKINAWA SDGs プロジェクト)の年次フォーラムにて1期生が活動内容を発表。会場(琉球新報ホール)での参加者数は約300名。2023年3月のOSPでも2期生が発表予定。	1

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
ワークショップやイベントを開催する際、沖縄県の感染予防対策ガイドラインに基づき検温・消毒などの感染予防対策を徹底した。

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

- ・2021年10月：琉球新報（グッドデザイン賞の受賞に関する記事）
- ・2021年11月：MOM FoR STAR オフィシャルサイト（2期生募集説明会の告知）
- ・2022年1月：琉球新報（SDGs特集：コザオフィスでのインタビューに関する記事）
- ・2022年3月：琉球新報（SDGs特集：OSP年次フォーラムでの登壇に関する記事）

- ・2022年5月：NHKの番組（おはよう日本/つなぐ未来へ）にて、全国放送
<https://www.nhk.jp/p/ts/GQG566LYNJ/blog/bl/poNG33LnW2/bp/pOE3EpVJa2/>

2.広報制作物等

- ・2021年10月：MOM FoR STAR プロジェクトが「グッドデザイン賞2021」を受賞。
沖縄のシングルマザーの就労支援と、東京のデジタルデザイン人材不足の解消に、地域を超えて挑戦した点が高く評価された。
- ・2021年12月：「Work Story Award2021 審査員特別賞」を受賞。

コロナ渦では、特に打撃を受けたシングルマザー家庭であるが、一方で距離を超えて働くという新しいスタイルも定着。「仕事や働くことは社会の課題を解決することでもある」ということを改めて認識させた点が評価を受けた。

3.報告書等

- ・2022年11月5日：OKINAWA SDGs プロジェクト（OSP）のカンファレンスが琉球新報ホール（那覇市）で開催。約100名が参加。1期生4名も参加し、約50社のOSPパートナー企業の人たちと意見交換。
- ・2022年3月12日：OKINAWA SDGs プロジェクト（OSP）の年次フォーラムが琉球新報ホール（那覇市）で開催。約300名が参加。1期生3名が登壇し、MOM FoR STARの活動を報告。

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	評価指標に関する実績集計/評価報告作成	山川伸夫	株式会社レキサス 執行役員
内部	評価指標に関する実績集計/評価報告作成	宮下泰彦	株式会社レキサス 管理部長

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
仕事の内容	仕事のレベル	1人で低難度の仕事ができる	2023年3月	1期生5名、2期生6名の合計11名が未経験からスタートして、2022年9月現在、10名が実務に入ることができている。 (残り1名は育休中)
生活	年収	200万円以上	2023年3月	フルタイム勤務した場合に年収200万円以上となる時給になっている。 (10名中7名が、研修時の6時間勤務から勤務時間を延長)

生活	家族の変化	子どもが応援、協力してくれる	2023年3月	1期生の中で小学生以上の子どもがいるメンバー2名から、「子どもが家事を手伝ったりして、お母さんのチャレンジを応援してくれている。」という声が出ています。
環境	職場環境	安心安全に働ける拠点ができる	2023年3月	2021年8月にコザオフィスを開設。100㎡程度の広さがあり、1期生、2期生全員が勤務できる環境ができた。 (3期生が入るときには、別オフィスの用意も必要)
波及	活動の周知状況	沖縄での活動が広く周知される	2023年3月	沖縄県内だけでなく、全国的にテレビや新聞で取り上げられている（詳細は上記「③広報の実績」を参照）。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」 **(※任意)**

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
プロジェクトの実施効果	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト参加者：11名 (1期生：5名、2期生：6名) Facebook フォロワー数：136名 (2023年8月末時点) 	プロジェクト参加者数は当初の計画通り進んでいる。また、Facebook フォロワー数はまだまだ多くないが、SNS以外のメディア（新聞、テレビ等）での情報発信が増えているため、当初の計画以上にプロジェクトの周知効果は出ていると考える。
支援対象者の成長	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト参加者1期生5名、2期生6名の全員が実務に入ることができた。 2022年4月～2022年7月末の1人あたり平均月間勤務時間：107時間 	プロジェクト参加者は、研修後に実務経験も積みながら成長することができている。ただ、成長スピードに差が出てしまうので、今後は参加者の成長度合いを見ながら業務のアサインを調整する必要があると考える。

支援対象者へのサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会は2022年3月末までに5回開催。2022年度は、4月から9月末までに5回開催。 ・2022年3月末時点で、1期生5名の各メンバーに対して5回実施（仕事面、生活面、体調面を中心に面談を実施） 	外部講師を招いてのセミナーや、親子ワークショップなどを通じて、プロジェクト参加者同士の関係を深めるための機会を積極的につくることができた。一方、各参加者の生活面や体調面については、個人面談を実施することでサポートしているが、できることに限りがあるので、外部専門家などとの連携も必要になると考える。
プロジェクトの波及効果	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年3月のOSP（OKINAWA SDGsプロジェクト）の年次フォーラムにて、1期生が活動内容を発表。会場（琉球新報ホール）での参加者数は約300名。 ・県外から活動に対する問い合わせや連携提案の件数が年間10件程度に増加。 	参加者の子どもたちが家事を手伝うようになったり、ITスキルの習得に興味を持ち始めたり、母親がチャレンジしている姿が子どもにも良い影響を及ぼす事例が生まれてきている。また、県外からの問い合わせ件数が増えたことをきっかけにして、新たな取り組みへの連携にもつながっている。
コミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年8月に開設したコザオフィスにて勤務する環境が整った。 	プロジェクト参加者同士が、お互いの事情を理解して協力し合うことを意識できるようになってきたと感じる。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある	現時点で、短期アウトカムの目標値は概ね達成見込みである。事業終了時には、中長期アウトカムの実現に向けた取り組みをつなげていけるように、他企業や行政とも連携していきたいと考えている。

短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある

短期アウトカムの目標値の達成は不透明である

短期アウトカムの目標値の達成は難しい

と自己評価する

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	プロジェクトの実施効果	適切である	<ul style="list-style-type: none">・プロジェクトの参加人数は、1期生5名、2期生6名と計画通りに進んでいる。・SNS等での情報発信数は、月平均2.5回ではあるが、それ以外に全国的なテレビや新聞での報道による反響が大きく出ている。・Facebook フォロワー数は136名（2023年8月末時点）
実施をとおした活動の改善、知見の共有			
組織基盤強化・環境整備			

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・仕事のレベル：株式会社フォーデジットから実案件として、大手不動産会社のWEBサイトの改修業務を受託している。
- ・年収：メンバーに対しては、県外企業と同水準の時間単価で算出した給与を支給している。
- ・家族の変化：子どもがママのチャレンジしている姿や働いている姿を日々身近でみていることで、家事の手伝いをするようになったり、兄弟の面倒を見るようになったりした。また、メンバーの子どものうち中学生2名が、Webデザインに興味を持ち、勉強を始めるようになった。

- ・職場環境：2021年8月に、コザオフィス内部のペンキ塗りをメンバーと子どもたちも一緒に携わったことにより、「自分たちの居場所は自分たちでつくる」という、通常企業に雇用されるだけでは経験することのできない、自主的マインド（DIY精神）を醸成することができた。
- ・周知状況：NHKの全国番組で放送、全国紙（日本経済新聞）に記事が掲載されたこと。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

活動の様子をテレビや新聞で取り上げてもらうことにより、2022年1月に開催した2期生説明会への応募者が約40名に増えた（1期生のお募者は約15名）。また、沖縄のシングルマザーを応援したい企業（約5社）からのコラボレーションの相談や、次回3期生として応募したいというシングルマザー（約10名）からの問い合わせも増えた。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</p> <p>と自己評価する</p>	<p>活動が2年目に入り、短期アウトカムを達成するための運営体制の基盤はできたと考える。</p> <p>今後、中長期アウトカムを達成するために必要なことを見直していきたい。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

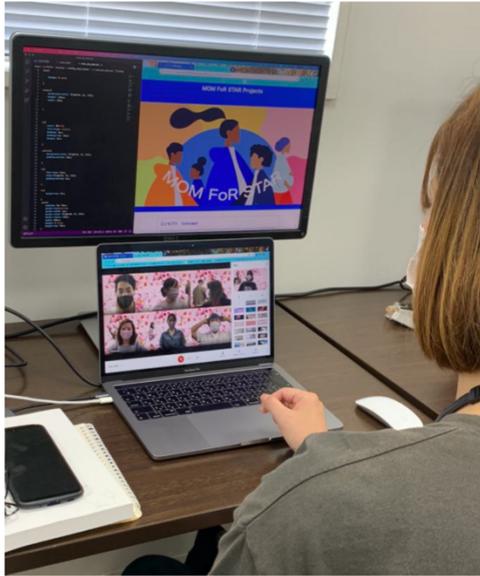
- ・個人だけではなく、チームとしてできる仕事を増やすこと
- ・3期生を迎え入れるにあたって、新たなオフィスを開設すること
- ・県内外からの応援や他地域への横展開に向けて、活動の広報を強化すること

Web サイト更新業務については、個人ごとに受けるよりも、チームとして協力し合いながら取り組む方が業務の質・量共に高めることが期待でき、生産性が上がることにつながると考えている。

そして、数年後にはこのチームで会社を創立したり、あるいはフリーランスとして独立したメンバー同士のコミュニティにしていくことを目指す。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



沖縄シングルマザー向けのWebデザイン就業プロジェクト
「MOM FoR STAR」が2021年度グッドデザイン賞を受賞！

～シングルマザーの就労支援とIT人材不足の解消を、地域を超えて達成した点が評価～



シングルマザーを支援

シングルマザーのための就業・協働プロジェクト「MOM FOR STAR（ママ フォー スター）」。「学ぶ」「働く」「つながる」の三つの活動を通して、未経験のシングルマザーがスキルを習得し、ウェブ業界で活躍できるまでをサポートする取り組みだ。IT企業「レキサス」（うるま市）と「フォードシット」（東京）、ひとり親やその子どもたちを支援する当事者団体のしん

MOM FoR STAR
スキル習得で就労へ

ぐるまきあず・ふおいらむ 沖縄の3者が連携する。「子どもが貧困」をテーマにした2020年10月開催の第3回OSPカンファレンスでのつながりをきっかけに、同プロジェクトは21年4月から始まった。レキサスがシングルマザーを雇用して業務支援し、フォードシットがウェブスキル研修や実践機会を提供する。加えて、しんぐるまが、メンタルケア、生活のサポートなどをする。

プロジェクトを通して、シングルマザーがワーキングプアを脱却し、自分らしい働き方や生き方ができる社会の実現を目指す。レキサスの山仲夫さんはプロジェクトは施しではなく先行投資だ。ビジネスとして利益が見込めるから、費用も時間も割いていい。皆さん一人一人の可能性を伸ばしている。将来的にはひとり親であることがハンデでなくなり、明るい希望を見つけ出せるプロジェクトにしたい」と展望を語った。

[2021年5月：歌手のMINMIさんがMOM FoR STARを応援しに来てくれました（TOYOPLA@豊見城市豊崎）]



[2022年9月：MOM FoR STARメンバーと子どもたち向けにアートワークショップを開催しました]



(HAMACHU@浜比嘉島)]

